

県民投票条例制定請求運動 報告

2025年5月23日

報告集会（新潟県生涯学習センターホールにて）

水 内 基 成

（柏崎刈羽原発再稼働の是非を県民投票で決める会世話人、弁護士）

県民投票条例案、4/18 否決される

・署名した14万3196人をはじめ県民が納得のいく熟議が行われたとはいえない。市民団体の訴えは一定の広がりを持った。知事には、県民の意思を確認するための具体的な手法や時期について、早急に明らかにするよう求めたい（4/19新潟日報社説）

・エネルギーなど国家的な問題は住民投票で進めるよりも、幅広い意見を間接民主主義で議論した方が適当（4/23新潟経済同友会幹事）

・県議会の判断は妥当。花角知事は再稼働を早く決断すべき（4/27産経新聞社説）

柏崎刈羽原発再稼働の是非を問う 県民投票条例案が臨時県議会で否決!



2025年4月16日から開催された臨時県議会で、「東京電力柏崎刈羽原子力発電所の再稼働に関する新潟県民投票条例案」が賛成少数（グラフ参照）で否決されました。県民投票の実現を求める14万3196人もの県民の願いが実を結ばなかったことは、大変残念です。



賛成: 16	反対: 36
リベラル新潟(6)	自民(31)
未来にいがた(9)	公明党(2)
無所属(1)	真珠にいがた(3)

多くの方のご支援・ご協力に心から感謝いたします

かつてない関心の高まりを

明日につなぐ決意です!!

これまでの活動の成果を共有し、明日を語り合う機会を以下のように開催します



新潟県生涯学習推進センター
新潟県立自然科学館
新潟県立図書館
カーブドックとやの
鳥羽砂浜

報告集会

日時 5月23日(金) 16:00開会
場所 新潟県生涯学習センター
(県立図書館併設) ホール
〒950-8602
新潟市中央区女池南3-1-2



みなさんのご参加、お待ちしております!



kenmintouhyou.net

柏崎刈羽原発再稼働の是非を 県民投票で決める会

〒950-2028 新潟市西区小南1丁目3-5
(Tel) 080-7668-4457

条例案は残念ながら否決されましたが、請求署名に寄せられた14万3196筆の想いは消えることはありません。この直接請求運動を通して問われたのは、原発問題とともに、民主主義そのものです。今回は、2012年に取り組まれた同様の条例案直接請求と比べても、署名数や賛成議員数が大幅に増えました。また、知事は具体的な方法を示さなかったものの、「多様な意見の把握」「県民の信を問う」ことを、あらためて約束しました。これらは、主催者として意思を示したいという県民世論の高まりが後押しした結果です。

私たちは、県民一人ひとりがしっかりと意思表示できる機会が早期に実現することを強く願っています。

花角知事のトンデモ発言

- ・国や地域の経済への言及はあっても人権についての言及無し。二者択一では県民の多様な意見を把握できない。（県民投票条例案に対する4/8知事意見）

←県民の主権行使と意向把握の混同

「多様な意見」の一大勢力は14万3196筆の有効署名に明白に示されている

- ・再稼働をめぐる県民意識調査「選択肢をどうつくるかが難しい」、具体的な時期、対象、手法は「担当部局で詰めているところ」（5/8定例記者会見）

←いつまで同じこと言ってるのか。県民投票やればいいのに。

- ・東京電力の柏崎刈羽原子力発電所は、地域にとってはメリットがない（5/7国交省、内閣府、経産省に国の支援拡充を要請）←結局、お金。

経済界のトンデモ発言

- ・国の重要な政策を、一地域の県民投票で判断することは“馴染まない”、一般の県民は十分な知識を持って判断することが難しく感情的な要素が強く影響する、県議会で県民の意思確認を（3/28柏崎エネルギーフォーラムの花角知事への要望書）

- ・「○か×か」なんて、どこかの入学試験ではないんだから（4/8新潟商工会議所の会頭（東京商工会議所会頭と柏崎刈羽原発を視察））

←二者択一の明確な意思表示の場を求める県民を馬鹿にしている

参考人のトンデモ発言

今本啓介氏（新潟大学法学部副部長。専門は租税法、行政法）

- ・ 県北に居住する県民が200キロ近く先にある柏崎刈羽原発の再稼働について、自分事として考えて投票をすることができるか。
- ・ 原発が立地している柏崎市・刈羽村の意向を優先する必要はないか。せいぜい意向が問題としてよいのは、自分事として考えることができる隣接市町までではないか。
 - ← 距離はフェイク。その後の自民党県議の代表質問でも無批判に引用。福島事故で明らかになった被害の広範性、不可逆性を無視。
- ・ 間接民主制は実は住民を責任の矢面に立たせないためのうまい手段？
 - ← およそ地方自治の専門家とは思えない発言。県民投票で意思表示するのは県民の一定の責任の引き受け方だが判断するのは知事。ましてや事故時の賠償責任は東電や国が負うのは明白。

自民党県議のトンデモ発言

臨時県議会での代表質問、一般質問より

- ・感情論に流される。SNS等でフェイクニュースが横行する。
- ・県内外の「プロ市民」の乱入で混乱する。

←原発推進勢力の豊富な資金力による広報宣伝はどう見るか

- ・立地との距離や関心度合いの違いからして一人一票はおかしい。

←福島事故の被害、影響の広範性を忘れた意見

- ・事務所に「議員辞めろ」などと苦情が来た。住民意思に拘束されて、県議の自由闊達な議論を阻害する。

←不見識。住民の主権行使を粗雑な論理で封殺

新潟県内 首長の反応

- ・県民投票も選択肢の一つ（2024年12月、長岡市の磯田市長）、多様な選択肢に修正する道もあり得る、と県民投票に肯定的（4/11、同）
- ・今回の県民投票条例案の議論を見ていて、聞いていて、「虚しさ」を感じた。「何年同じような問答を繰り返してきたんだろう。法治国家でありながら法の規定外の所で足踏みをし、何も決まらない」という虚しさ。民主的とか、住民本位とか言って、安っぽいアンケートとフィーリングで結論を出すと百年の悔を残すこととなる。行政の責任のポストにいる者は、重大な責任を持たせられていると銘記すべき（4/18、柏崎市の櫻井市長コメント） ←怒 
- ・一番大きなテーマは柏崎刈羽原発（新潟県）の再稼働問題。市長会として一体となって行動するのか、しないのかを含め、各市長の意見を聞きながら慎重に進めなくてはならない（5/7、新潟県市長会の会長に就任した十日町市の関口市長コメント）

運動（＝直接請求署名活動）の成果

- ・有効署名数 14万3196筆は、新潟県内有権者の約8%、約12人に1人
 - ・法定された厳格な署名収集手続（収集者の資格、地域、署名簿の様式、収集期間（晩秋から真冬にかけて）、直接対面での収集
 - ・受任者になってもらう、署名をお願いする過程での県内で数十万回の草の根の直接対話。「署名してくれた人の足音が聞こえるようだ」 住民自治、民主主義の足腰。自ら行動する県民。
 - ・組織力、目標設定（全県20万筆）、地域間の競争、個人のがんばり、若者
 - ・住民のいのちや暮らし、人権に関わる特定のテーマについて、住民の意思を直接反映させる、直接民主主義の手法
- ⇒ かつてない県民の関心の高まり

運動（＝直接請求署名活動）の成果



活動の正念場はこれから!!

ウェブアンケート

にご協力ください

署名をしたかどうかにかかわらずさらに多くの県民の思いを目に見える形にし、新潟県知事や新潟県議会議員に届けたいと考え、ウェブアンケートを実施します。

対象：新潟県内にお住まいの方
実施期間：2025年3月15日まで



あなたの声を
新潟県知事、新潟県議会に
届けましょう。



運動（＝直接請求署名活動）の成果



運動（＝直接請求署名活動）の成果



運動（＝直接請求署名活動）の成果



4/17新潟日報デジタルプラス



運動（＝直接請求署名活動）の成果

- ・ 自民党や原発推進勢力の不見識を露呈させた。
- ・ 2013年の取組との比較で、県議会内での賛成数の増（7→16）
- ・ 花角知事に「県民に信を問う」プロセスの明確化を迫った。

この間の知事答弁によれば、①県民の意見を聞き、県民の意思がどう固まるの
か見極め、②リーダーとして判断し、結論を出し、③その結論について、県民の
意思を確認する、というプロセス

①の手法としては、公聴会の開催、県内首長との対話、県民意識調査等に言及。

③の具体に明言しないものの、「信を問うことが最も重い」「存在を賭ける」
との発言等からして県知事選挙（現在の任期は2026年6月まで）を想定して
いることがはっきりしつつある。

・委員に1なぐ
・修正（や）
・再稼働の賛否の議論を先取り
・開かれのたの県議会の改レが必等要の
（傍聴み禁P止、資料配付無し）
cf. 5/14朝日新聞→

今後に向けて

- ・ 花角知事が実施するとされる公聴会、首長対話、県民意識調査についての監視、意見表明
- ・ 県民が声を上げ続けるための新たなプラットフォームづくり
- ・ 「信を問う」前に示すとされる花角知事の「リーダーとしての判断」が政府に対する再稼働に関する事実上の回答となることは何としても阻止する。

柏崎刈羽原発再稼働の是非を県民投票で考える会

ホームページ、SNSに会の取組や見解ほか、様々な資料を掲載しています。そちらもぜひご覧ください。

<https://www.kenmintouhyou.net/>

